



放課後  
デイサービス  
ライト

主活動の室内ゲームでお馴染みのストラックアウト。ライトスタッフが試行錯誤を繰り返して、以前のものよりパワーアップ！その為ライトのみなんで始球式を行いました。見た目も立派になり、的の強度や的を直す手間も減ることで子ども達の待ち時間も削減され、大人も混ざって点数を競いながら楽しくゲームに取り組んでいます。右側に某野球選手がチラリと映り込んでいますがそこはご愛嬌で…(笑)

ちなみにこのストラックアウト、11月に行うふれあいまつりのゲームとして使用します！是非一度ご参加ください♪



放課後  
デイサービス  
レフト

朝夕の寒暖差の大きい季節になりました。季節柄、学校行事やお祭りもあり、楽しい思い出になる事でしょう。

10月2日、藤田邸にあったサウナ室をレフトへ運び課題部屋に設置をしました。子ども達の豊かな感性・想像力・どんな発想を見せてくれるのか楽しみです。

ある子は電車の車掌さんになってみたり、ある子は秘密基地、隠れ家、ある子は読書部屋。お友達を呼ぶ声も響き渡り笑顔でいっぱいです。ドラえもののどこでもドア等々。

側面に落書きコーナーを作ると、「まごころ」と書いて落書きも楽しんでいます。



### デイサービス通信



敬老の日



9月18日の「敬老の日」、その日は丁度第3月曜で恒例の『貴船女性の会』のボランティアさんをお呼びしての「お茶会」の日でもありました。

お抹茶のお菓子として、皆でミニおはぎを手作りしました。少量のもち米を炊き、最初に丸めた大きさをもっと小さくして、結局一口おはぎができ、とても美味しく頂きました。

お茶会の後にはボランティアさんたちと、輪投げゲームを楽しんで競い合いました。

プレゼントに添えた一人一人の写真には、どの方もとても素敵な笑顔で納まっています。

皆さんいつまでも元気で長生きしてください！



協同でモザイク画「水連の池」制作



トーテムポールはふれあいまつりで飾ります！

### つぶやき



いのちの重み

相模原の重度障害施設で、元介護職員による大量殺傷事件が発生して一年余り。残虐な事件や自爆テロなどが日々報道されているが、この事件は私の胸深くグサリと突き刺さったままである。

この犯人の「重度障害者は生きていてもしょうがない」という、実に短絡的で偏屈な思い上がった考えが犯行動機と聞いて、ことさら深い衝撃を覚えたからだ。人間をそこまで差別する価値判断の基準はどこから生まれたのかと私は考えた。もしかしたら経済最優先の現代社会に悪影響されて、経済的生産手段をまるで持たない者は生きる価値がない、とも思うに到ったのではなかろうか。

だとすれば26歳の夏に水難事故で頸髄損傷して全身不随となり、多くの人に支えられて何の生産活動もせず、のうのうと60年近く生き続けている私など、犯人の無価値リストの最上位に在って当然だと思わざるをえない。

しかし彼も「人間の命は地球より重い」という格言を聞いているはずだが、その意味を考えたことがあるだろうか。もしかしたら「人間の命は羽毛より軽い」とでも錯覚して、地獄劇を演じてしまったのかもしれない。改めて考えれば報道される事件の大半は「命は軽い」と考えているように思える。

握力ゼロの手で書字機能を取り戻したものの生産活動に繋がらず、文芸や雑文を書いてお茶を濁しているが、私は精一杯ありのままの自分を表現して生きているつもりで、いささかも無価値の人間とは思っていない。

人間は誰しも生きるべき存在価値があって生かされているのであり、絶対に羽毛より軽い命などありえないはずである。

おっとどっこい笑顔で生きる車椅子

澤田 清敏

### ケアマネジャーの目

No.5 排泄について

なかなか、触れにくい、ナイーブな内容です。排泄といっても、トイレに行く、ポータブルトイレを利用する、ストーマ、カテーテル、導尿、パット 紙パンツ オムツなどを利用するなどなど。そして、一番大切なこと。いつまでも自分で行いたい。家族にとっても、一番の悩みどころ。何とか清潔に、何とか楽に過ごしてほしい。住居環境、生活様式、疾患、心身の状況、支援する方法なども個性性が大きいのです。ケアマネにとっては、正確な状況を知ることも難しかったりします。一人ひとりの生活リズム、排泄リズムも違います。ご本人、ご家族、ケアマネジャーにとっても悩み多き問題ですが、今は様々な解決方法があります。生きる上での最重要課題です。これがすっきりしたら とっても幸せです。

#### ~知っておきたいヘルパーの知識~

『尾西ウィンドウオーケストラ定期演奏会』を聴く機会がありました。

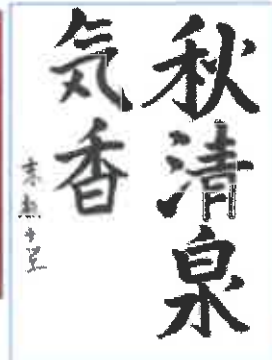
今回で創立50周年を迎えるオーケストラの演奏はすばらしい迫力で、アルトサクソの素敵な音色は会場一杯に広がっていました。驚いたのは、白髪のご年配の方々客席に沢山いらっしゃった事です。この楽団が長く愛され続けてきた証の様な気がしました。

今回、記事掲載でご紹介する作品の方も長く趣味を続けられ「90歳になっても、書きたいなーと気持ちがわいてくるのよ…」とおっしゃっておられます。

皆さんも、長く続けられる好きな事を見つけてみてはいかがでしょうか。



高島幸子：作



末松ナツエ：作